

行徳 康平（ぎょうとく こうへい）

（環境科学部 環境政策コース平成24年度卒）

環境科学部環境政策コース卒業生の行徳康平と申します。皆さんは「環境」と聞くとどのようなことを想像されますか。おそらく地球温暖化や砂漠化、オゾンホールの破壊……など自然環境問題を

1 Message

想像するのではないでしょうか。実際、私が高校生の時もそのようなイメージを持っていました。しかし、環境科学部に入学してからそのイメージを覆されました。例えば、環境科学部では哲学、経済学、社会学なども学習します。これらの科目を受講した際、私は「環境科学部なのに、環境と関係ないこれらのことをなぜ勉強しなければならないのか」と思っていました。しかし、日々学習するにつれ、環境は自然環境一辺倒ではなく、社会環境や都市環境、国際環境など幅広い意味での「環境」を含み、この意味での「環境」を学ぶことで様々な問題解決の視点を得ることができると4年生になつてから思うようになりました。

環境科学部は2年生になると文理選択の機会があり、自分が学びたい方向性を決めます。この点も、入学時は文系だったが理系で学びたいと考えれば理系に、逆に理系で入学したが文系で学びたいと考えれば文系に、それぞれ選択することが原則としてできます。実際、私も理系で入学し

ましたが、文系に変更しました。

3年生になると自分が興味のある専門分野に特化するため研究室（ゼミ）に所属されます。私は保坂稔先生のゼミで社会環境を中心に学習しました。主に雇用環境に興味を持ち、先生の熱心な指導のもと学ぶことができました。そのかいあってか、雇用問題を取り扱う労働局に就職することができました。

大学に入學すると、今までとは違う多くの刺激があると思います。様々なことに興味・関心を持ち、広がっていくと思います。その中で環境科学部は文系・理系を問わず学習することができるので、自分の興味・関心が見つかり、そして深めることができます。

受験生のみなさん、このような充実した環境の下、多くの視点から学ぶことのできる環境科学部で楽しく、そして実のある大学生生活を送ってみませんか。

